

# 活動報告書

報告者氏名:西島明佳

所属:多摩市立多摩永山中学校

記録日:平成27年 2月 27日

## 【対象児の情報】

### ・学年

中学校2年生

### ・障害名

思考整理や短期記憶に特性として課題があり、個別の支援を必要としている。

### ・障害と困難の内容

手先が不器用で、ひらがなやカタカナの文字の大きさや形が整わないなど書字が苦手である。ただし、本人と保護者の継続した取組の結果、漢字を含めて小学校で習う文字の読み・書きはほぼ可能である。

文字を読むことはできるが、内容をイメージして捉えることが難しい。

集中の範囲が狭く、衝動性がある。

自尊感情が低く、失敗することを恐れており、悪い評価に敏感である。

見通しが付きにくいとうまく行動ができない。

## 【活動目的】

### ・当初のねらい

対象児にとっては通常の学級での授業内容は大きな課題であるため、日記アプリ「Livre」を用いて日記をつけることを通じて日常の出来事や思いを表現する。「自分の思いを他者に伝える」体験を重ね、「伝わる見通し」をもたせ、「伝えたい」という意欲を引き出す。教師とのやり取りの中で、書くことに対する意欲を支える。

日記を振り返る際に、「こういう時はこう対応する」、「困った時は相手に助けを求める」、「相手の失敗を許してあげる」などのスキルを教員から教えてもらうことで、対処方法を身につける。

### ・実施期間

平成26年5月28日～平成26年10月31日

### ・実施者

特別支援教育コーディネーター・在籍学級担任・養護教諭・ピアティーチャー(教員免許を持つ学習指導員)

### ・実施者と対象児の関係

別室登校時の指導者

## 【活動内容と対象児の変化】

### ・対象児の事前の状況

言語情報を保持し必要に応じて取り出すことが苦手であるため、物事や感情の言葉での説明が難しい。伝えたいことを伝えられない苦しさがある。また、書くことで何かを伝えることができたという成功体験が不足しており、意欲の低下を招いている。

通常の学級の授業内容は理解が難しく負荷がかかっており、自発的に読み・書きに取り組む様子は見られない。

### ・活動の具体的内容

手書きと iPad 入力とで文字数や漢字使用率について違いが生じるかアセスメントをとる。毎朝、前日の出来事について思い出しながら、日記アプリを用いて iPad で日記をつける。書いた日記を見直し、漢字表記にしたり 5W1H の記述や感想を追記したりして仕上げる。(図1) 内容に応じた写真を取り込み、日記に添付する。別室登校時に iPad を持参し担当教員に日記を見せる。日記の内容について教員と話し振り返りシートにまとめる。日記をプリントアウトし、振り返りシートと共にファイルに蓄積してポートフォリオとする。



図1：5W1Hカード

### ・対象児の事後の変化

図2に示した通り、これまで手書きでは困難だったことが iPad を用いることで容易になったことがわかる。

日記のやり取りを通じて「書くこと」に自信をもち、1学期後半から別室への安定登校ができるようになった。日記を通じて前日の出来事を振り返ることで記憶が整理され、担当教員から褒めて認めてもらう経験を通じて自己肯定感が高まった。日記は毎日書いている。

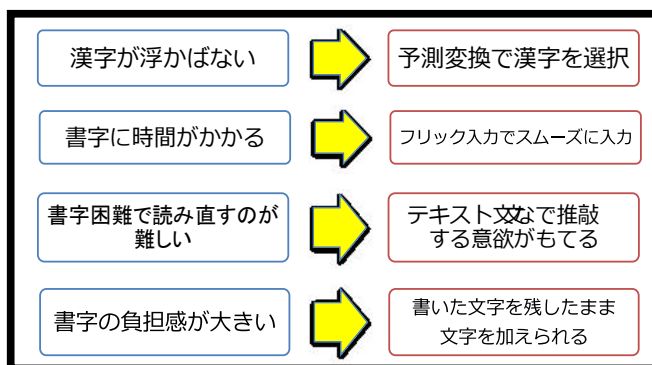


図2：手書きと iPad 入力の違い

事情により2学期中盤から個別の支援が受けられる環境へ転学し、ご協力をいただいている。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

対象生徒は振り返りシートの中で、日記を書くことにより「スッキリする」と述べており、頭の中で考えていることを言語表出することの効果を感じている。順序立てたり例示したりしながら話すことが可能となり、会話の中でも変化が感じられる。(図3)

文字を手書きで写す時は、漢字の写し間違いや文字の一点一画が離れてしまうなど気になる点があったが、iPad を用いるとスムーズに入力できている。

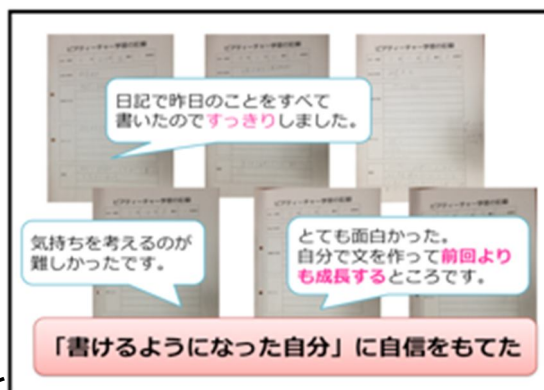


図3：振り返りシート

・ エビデンス(具体的数値など)

手書きと iPad 入力による1分間での文字入力数の違いと漢字使用率については、iPad を用いたことで文字入力数が増え、漢字使用率も上がった。(図4・図5)

5W1Hカードを用いることで日記の内容が充実したものとなっていることがわかる。(図6)

当初は10行程度の日記であったが、夏休みに行った家族旅行の日記では50行書くことができています。(図7)

出来事の記述だけではなく、「昨日は最高な日でした」や「昨日は食べ過ぎだと思いました」など、最後に1日のまとめを書くようになった。

転学する際に先生やクラスメイトに宛てた手紙も iPad で作成し、言語表出手段として活用している。

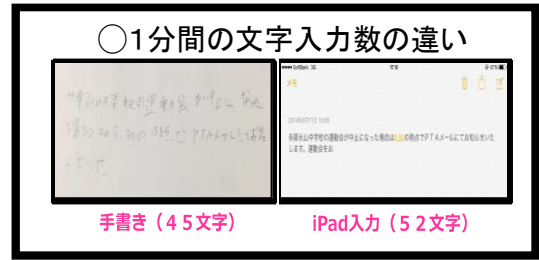


図4：文字入力数

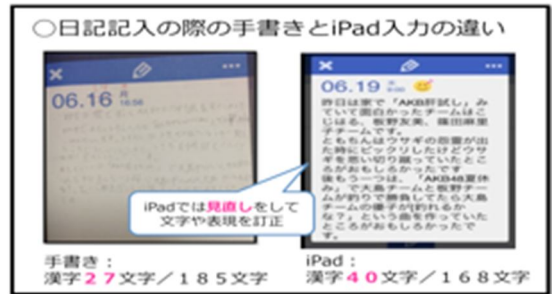


図5：漢字使用率

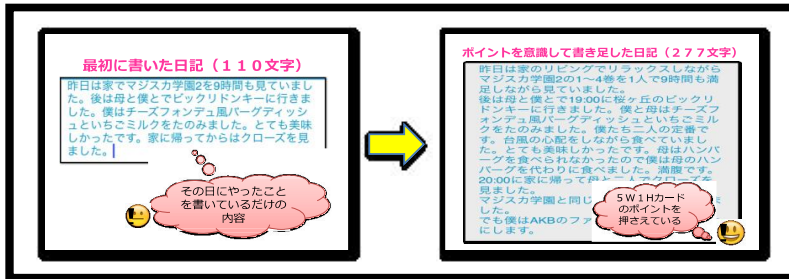


図6：5W1Hカードを用いる前後の日記



図7：夏休みの日記

・その他エピソード(画像などを含めて)

iPad との親和性が高く、意欲的に活動に取り組んでいる。(図8)

本プロジェクトが終了した後も家庭で日記を継続して書けるように、自己所有の iPad mini を購入している。

## ・転学先でのエピソード

転学先でも、引き続き毎日 iPad アプリを活用した日記のやり取りを担当と行っている。加えて、国語の授業では週に一度日記の発表に取り組み、発表後に「質問タイム」を設けている。対象児の日記は他の生徒より長く書くことが出来ていたため長文を書く秘訣を質問すると、笑みを浮かべながら誇らしげに上達カード（5W1Hカード）について教えてくれた。クラスメイトの前で教える機会を設けることで自己肯定感を養うことができている。現在は行事でリーダーに立候補するなど、前向きに活動する様子が見られる。（図9）



図8：iPad を用いる対象児

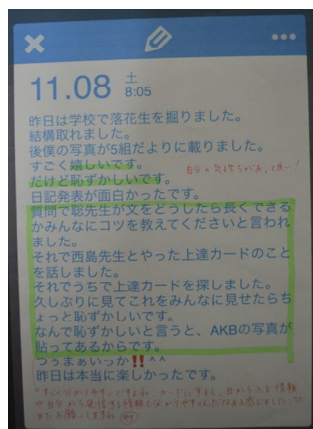


図9：転学先での日記